

豪華声優陣で贈る、火の鳥の新たなる物語、再び！！

「火の鳥“道後温泉編”」第2話「子規と漱石」



2019年5月24日公開の「火の鳥“道後温泉編”」プロローグ～第1話に続き、道後温泉を舞台に「火の鳥」の新たな物語が誕生。神話時代の、道後温泉の守り神である大国主（おおくにぬし）と少彦名（すくなひこな）の「玉の石伝説」を題材にしたプロローグ「大国主と少彦名」。飛鳥時代の聖徳太子が道後温泉を訪れた伝説を題材にした第1話「聖徳太子、来浴」。そして第2話の舞台は、時空を超え、明治時代へ。

その風情ある佇まいが多くの人に愛されている道後温泉本館は、初代道後湯之町町長・伊佐庭如矢（いさにわゆきや）により、明治27年に改築されました。物語はその伊佐庭如矢の夢枕に現れる大国主と少彦名、そして火の鳥の眩い光から始まります。何度も見る夢に促されるよう、伊佐庭町長は松山城の城大工を務めた家系の坂本又八郎を棟梁に迎え、道後温泉の改築を決意するのです。

道後温泉本館の改築が終わった翌年の明治28年。道後温泉に、松山が生んだ俳人、正岡子規と、親友、夏目漱石の二人の姿が……。当時不治の病といわれた結核を患い、療養中の子規と、そんな子規を気遣う漱石。まちを歩きながら日本の文学のこれからを熱く語り合ったのではないのでしょうか。そんな子規の前に、突如現れた火の鳥。時代の転換期に現れ、人類を導くという火の鳥。激動の時代、生命をかけて生き抜こうとする男たちに、眩い光に包まれた火の鳥が託したメッセージとは？

時空を超えて描く、「火の鳥」の新たな物語。アニメをお楽しみいただき道後の歴史に触れていただき、道後温泉を訪れていって湯を楽しみ、ゆったり身も心も癒してみたいかがですか？

（本作品はフィクションです。劇中に描かれるエピソードは、一部史実と異なる部分があります。）

【声の出演】大国主・伊佐庭如矢：つるの剛士 少彦名・坂本又八郎：三森すずこ
 正岡子規：福山潤 夏目漱石：立花慎之介 猿田彦：小村哲生
 マドンナ・ナレーション：友近（「いい、加減。まつやま」応援団長）
 火の鳥：水樹奈々
 アニメーション制作：手塚プロダクション 制作：ポニーキャニオン
 脚本：増本庄一郎 西村太佑 監督：吉村文宏
 ©手塚プロダクション／松山市 2020 （第2話本編約6分30秒／全体約9分）

「火の鳥“道後温泉編”」第2話「子規と漱石」 みどころ解説

■ 大国主と少彦名が再登場！！

プロローグ「大国主と少彦名」で登場する大国主と少彦名が、第2話の冒頭、伊佐庭如矢町長の夢の中に登場します。ふたりの神様があわただしく働いています。その場面は明治27年の道後温泉の明治の改築よりもっと昔のようです。日本神話では、国造りのため日本全国を旅したとされる大国主と少彦名ですが、大国主は道後温泉本館の前身らしき建物の建築を指揮していますが、少彦名は人々に薬を配ったりしています。実は少彦名は医学の神様といわれ、温泉の効能にも精通していたのでしょ



■ なぜ？一人二役の声優陣

そんな大国主と、第2話で登場の伊佐庭如矢町長の声の出演を務めたのが、俳優のつるの剛士さん。坂本又八郎は人気声優の三森すずこさん。なぜか、一人二役の配役となっています。声優の三森すずこさん、アフレコで、相手役の俳優・つるの剛士さんの演技を絶賛したそうです。ところでよく見ると、大国主と伊佐庭町長の出で立ちにはある共通点がある。このあたりに、「道後REBORN」のプロジェクト名に込めた秘密が隠されています。アニメの映像で是非、ご確認ください。



つるの剛士



三森すずこ



「火の鳥“道後温泉編”」第2話「子規と漱石」 みどころ解説

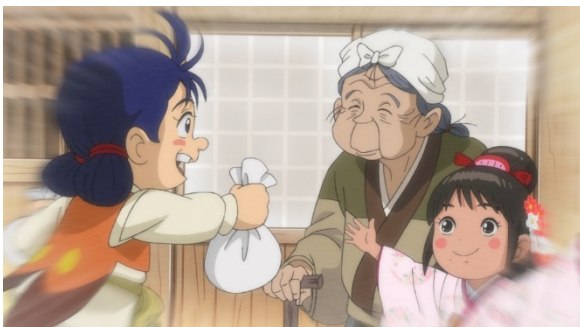
■ 正岡子規と夏目漱石の熱い友情を見守る、永遠の生命の象徴「火の鳥」

明治28年10月に道後のまちを散策した、日本近代文学の礎を築いた正岡子規と夏目漱石。夏目漱石が松山中学校に英語教師として赴任してきたことを知り、日清戦争に記者として従軍し帰国の途で結核により咯血、神戸の須磨で療養していた正岡子規が故郷松山に帰ってきます。二人は松山の下宿を愚陀仏庵と名付け、52日間の共同生活を送ったと言われています。その期間中、日本文学のこれからについて、どんな話をしたのでしょうか。このアニメでは、そんな二人を演じるのが、人気男性声優、福山潤。そしてその盟友、立花慎之介。二人のやり取り、子規が火の鳥に出会って、たつての願いを叶える場面は、本作のみどころです。子規の願いとは？火の鳥のメッセージとは？



■ 道後温泉本館保存修理寄附（クラウドファンディング）でエキストラ出演

「火の鳥“道後温泉編”」第2話「子規と漱石」では、重要文化財の公衆浴場として、全国で初めて営業しながらの保存修理工事を行っている道後温泉本館のクラウドファンディングの返礼品として、エキストラ出演権が設定されました。結果、2名の応募があり、寄附者の様々な角度からの写真をもとに、手塚プロダクションがキャラクター化。それぞれ、印象的な場面でご出演いただいています。



「火の鳥“道後温泉編”」第2話「子規と漱石」 みどころ解説

■「いい、加減。まつやま」応援団長 友近さんがマドンナ&ナレーション

2019年7月19日に道後温泉本館東側の振鷺亭にて行った「道後温泉本館ラッピングアート」の制作発表にも登壇の「いい、加減。まつやま」応援団長でもある友近さん。本作では、全編通してナレーションを担当。さらに、夏目漱石の小説「坊っちゃん」からスピノフした「マドンナ」が劇中に登場。どうやら「マドンナ」は第2話に続く作品でも、展開の鍵となる人物になるようです。乞うご期待。



■プロジェクションマッピングと、アニメーションの融合

2020年2月1日に公開の「火の鳥“道後温泉編”」第2話「子規と漱石」。道後REBORN公式サイト他で無料で視聴できるコンテンツです。また、道後温泉本館の北面では、2月21日から、道後温泉本館プロジェクションマッピング「道後温泉×ネイキッド MESSAGE -子規と漱石-」がスタートします。手作りのアニメーションが魅力の本作と、最新のデジタルアートコンテンツが融合し、道後温泉本館が新たな物語で彩られます。是非、その目でお確かめください。

